ボランティアの育成・支援

共に創る学び、共に学ぶ楽しさ、学びを生かすコーディネイト

秦野　玲子

（９７年度関東甲信越静公民館研究大会事例発表）

１　藤沢市の概要　藤沢市は神奈川県のほぼ中央部、湘南と呼ばれる地域に位置し、人口は約３７万人。交通の便は、東京都内へＪＲまたは小田急線で１時間弱と、比較的恵まれている。気候は相模湾の暖流の影響を受け、比較的冬暖かく夏涼しい、快適な住環境となっている。

２　藤沢市の公民館の概要　市内にはほぼ中学校区に１館の割合で、１３の公民館があり、そのうち３館は単独館で１０館は市民センター（証明発行や税等の収納、地域団体の事務局などをもつ）との併設となっている。中央公民館はなく、各地区館で地域の特色を生かした事業を進めている。

３　六会公民館の概要　六会地区は南北に長い藤沢市のやや北寄りに位置し、対象人口は３万人、11,000 世帯。１９７６年（昭和５１年）に開設。館長は市民センター長兼務。公民館担当職員２名と非常勤の社会教育指導員３名、公民館体育指導員２名とで、年間に約５０事業を実施。

４　藤沢市の公民館とボランティア　現在ある、藤沢市の公民館でのボランティア活動を以下のいくつかに類別した。

①広報活動　～　公民館報の編集。
②事業の企画・立案　～　事業の企画会に参加、運営にも関わる場合あり。
③事業の実施　～　学級・講座実施の際に様々な形で関わる。
例）・保育活動（幼児をもつ母親の学習機会の保障と、こどもの集団学習）
・介護活動（障害者の事業参加、活動の援助）
・指導、助言、発表（語学、生活技術、伝統技術、地域の歴史等）
④委員会活動　～　公民館や地域団体等の各種委員会への参加

こうしたボランティアは、その目的に応じて養成・育成するものもあれば、依頼し活動の機会を設けることが、技術や活動内容の向上につながることもある。

前者は、ボランティア活動の前提として学習があり、活動の内容そのものを学習しているし、ボランティア自身も目的意識が明確であり、職員も事業につなげやすい。

藤沢市でも、保育ボランティア養成講座や、観光ガイドボランティアの養成講座講座を開催している。

５　六会公民館でのボランティアとのかかわり

さて、公民館でのボランティア活動を考えた時に大切なのは、講座で養成することだけではなく、講座終了後や、活動の中で、どう関わっていくかだと思う。

私と保育ボランティアとの場合をいえば、学習プログラムを組み立てる時から、保育をどう位置づけるのか、参加者に配布する保育資料をどう工夫してつくるのかを一緒に相談しながら進めたり、毎回保育終了後の反省会に加わり、保育ボランティアが保育をとおして子どもの育ちや母親の学習をどう援助していくか、話し合いながら考える機会を作ることで、単なる条件整備の支え手ではなく共に学習を創っていく存在として関わっている。

もうひとつ、公民館ならではの楽しさとしては、養成するのではなく本人が意識していない能力を活かす場所づくりであろう。簡単な例を一つあげると、高齢者学級の参加者で専門家ではないが、お菓子を焼くのが上手な方の小学生向きのケーキづくり教室指導。
一人では大変なので、高齢者学級の有志をつのり、まず、教える仲間を増やして実施したのだが、その後街で小学生から声をかけられることが楽しく、年々作るものを工夫したり教え方も上手になってきている。職員の関わりとしては、まずやってみるよう声をかけることから、負担にならないように準備を一緒に十分にやること、こまめに相談にのってあげること、充実感がもてるよう子どもの感想などを聞かせてあげる時間を作ったこと。さらに本人が工夫できるよう、一度かぎりにしなかったことである。

その他、サークル会員が、習ったことを会員以外に指導する１日教室の実施の援助などこちらからしかけていくものもあれば、館報の編集委員の方や、窓口で応対しながらの雑談の中で、まちの一芸名人の存在を知ったり、それを事業につなぐヒントをもらったりすることも多々ある。要は「ボランティアかくあるべき」ではなく、地域の人の持つ力をどれだけ事業の形にして、地域の中に広げていけるかを、心がけていることなのだと思う。

６　これからの課題 ～　学びを生かすボランティアコーディネイト

これまでに述べてきたように、ボランティアがイキイキと活動できる場所づくりは、何よりも職員のコーディネイトの力量にかかっていると思う。それは、
①職員自身がボランティア意識を高めること、共に学ぶ姿勢があること②カウンセリングマインドをもっていること
③人が好きで、それぞれの持っている力をみつけられること
④人と人、グループとグループをつなげること、関係の体験こそが公民館の醍醐味と、思えること
⑤学習の方法をたくさん知っていること、もしくは、学習の方法に決まったパターンはないということを知っていること
⑥やわらかな価値観と感性

これらはとりもなおさず公民館職員に必要な力量そのものだと思うが、現在のような短

期間の人事異動の中で、こうした力を身につけるためには、ボランティアコーディネイトのための職員研修プログラムから、まず開発していかなければならないのかもしれない。

また、一人の職員の資質や努力だけではどうにもならない部分としての課題は、情報の提供（様々な活動のありかたを知らせる）や、人材を登録し構造的にネットワークしていくシステムづくり。これは全市的な単位にボランティアセンターをひとつ作ればそれでいいというようなものでなく、コンピューターによるネットワークだけでもなく、様々な施設で、コーディネイトする職員とともに成り立つシステムでなければならないと思う。

ボランティアといえど、活動の経済的な条件整備も必要であろう。また、企業の派遣ボランティアのように、客観的な評価を求める人に対してどうしていくのかも、現在公民館職員として抱えている課題である。